

第2章

環境の現状と課題

この章では、村上市全体の概況をまとめるとともに、自然・生活・社会・地球の各環境分野における本市の現状と課題について記載しています。

① 村上市の概況

② 環境の現状と課題

1 村上市の概況

村上市は、新潟県の最北部に位置し、東部は朝日・飯豊山塊の稜線を境界として山形県と接しています。西部は約 50km の海岸線を有して日本海と接しています。

本市の面積は、1,174.24km²で、新潟県の総面積（12,583.48km²）のおよそ 9.3% を占めています。

■人口

本市の人口は、平成 22 年 10 月 1 日時点の国勢調査（新潟県速報）では、総人口は 66,445 人で、同時点の新潟県の総人口（2,374,922 人）の約 2.8% を占め、県内市町村の第 8 位となっています。平成 17 年 10 月 1 日時点の国勢調査の総人口は 70,705 人であり、この 5 年間で 4,260 人減少しています。

また、本市では、人口が減少している一方で、世帯数は増加傾向にあり、核家族化の傾向が顕著となっています。

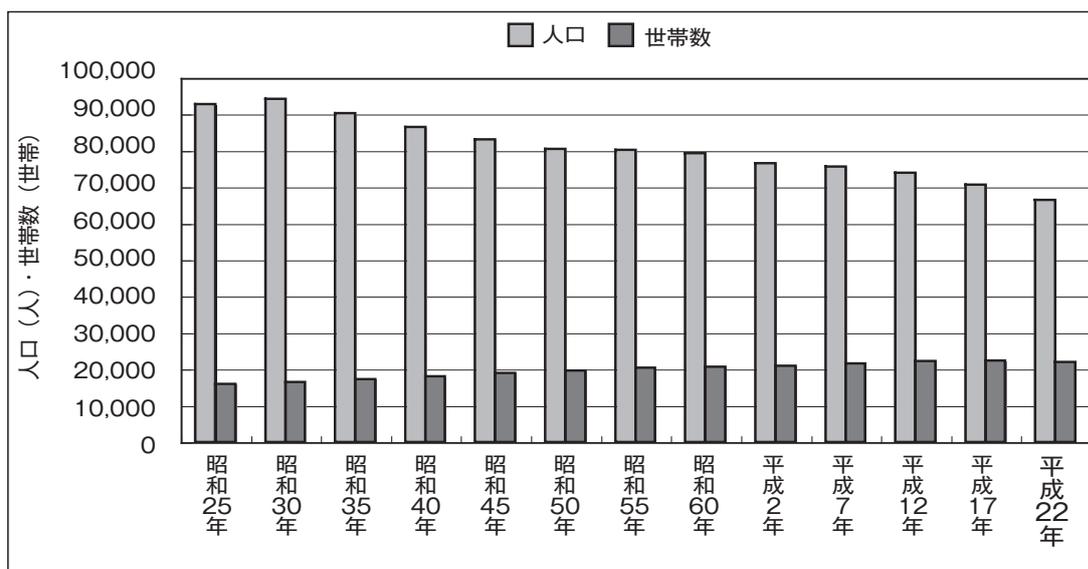


図 2-1-1 村上市の人口と世帯数

(資料：国勢調査・平成 22 年は新潟県速報値)

平成 17 年国勢調査時点の年齢階層別人口の推移を見ると、全国と同様に、生産人口（15～64 歳の人口）の中でも若年層ほど人口が少なく、今後、高齢人口（65 歳以上の人口）が増加すると予想される典型的な高齢社会となっています。現在、55～59 歳の人口が最も多いことから、今後、少なくとも 10 年間は、このような人口の推移で進むものと考えられます。

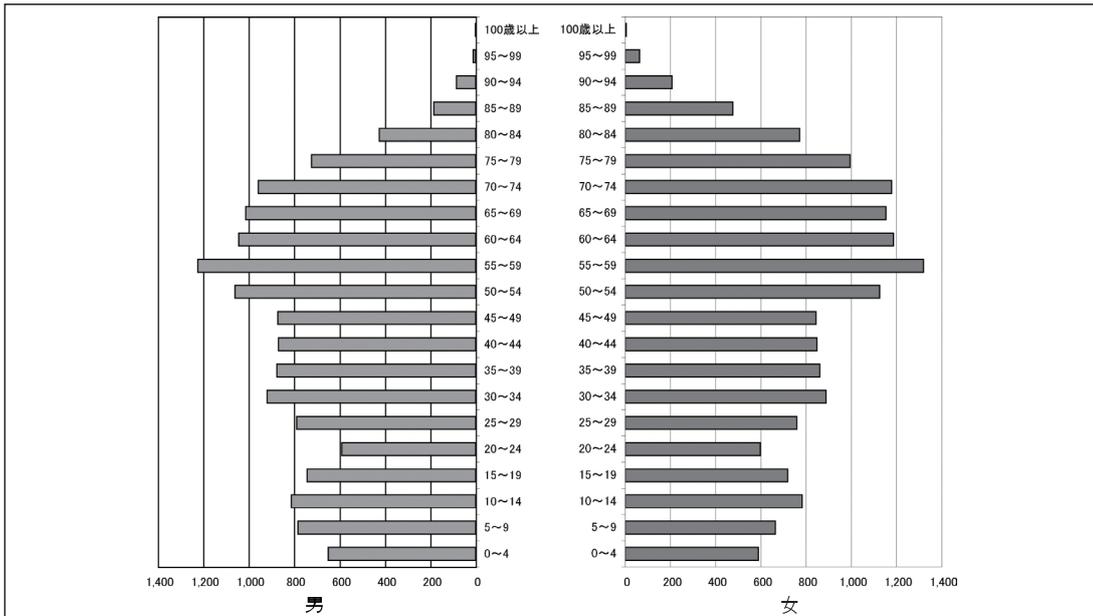


図 2-1-2 村上市の人口ピラミッド
(資料：平成 17 年国勢調査)

■土地利用

本市の地目別面積については、全体の約 67%を森林が占めており、次いで田(約 18%)、畑(約 5%)の順となっています。このため、本市では大半の土地が、森林の緑によって覆われているといえます。

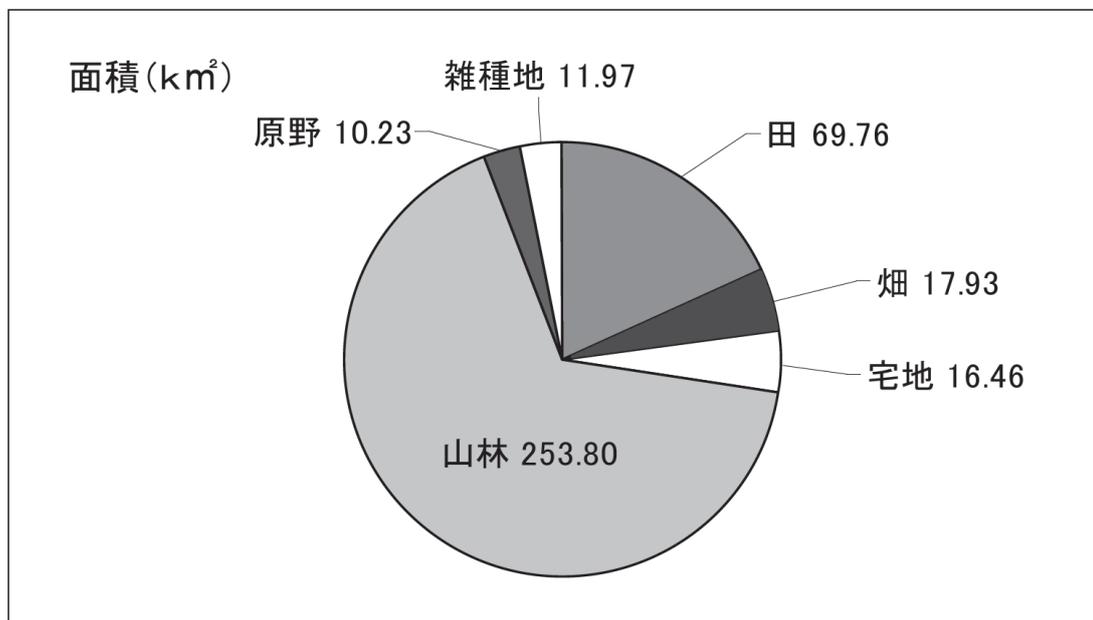


図 2-1-3 村上市の土地利用地目別面積 (非課税土地を除く)
(資料：むらかみデータブック；平成 22 年度版)

■産業経済の動向

一般的な産業構成の指標である就業者の産業別割合については、本市では平成17年10月1日現在、第1次産業：10.9%、第2次産業：32.7%、第3次産業：56.5%と、第3次産業の就業者が過半を占めており、特に村上地区では、第3次産業就業者の割合が66.5%と、都市型の産業構成となっています。しかし、本市全体を新潟県全体と比較すると、第1次産業が多くなっている点が特徴的です。

表 2-1-1 村上市の地区別産業別就業者数

	第1次	構成比	第2次	構成比	第3次	構成比	合計
村上地区	774	5.4	4,049	28.1	9,573	66.5	14,396
荒川地区	558	9.8	2,151	37.8	2,985	52.4	5,694
神林地区	707	14.4	1,794	36.4	2,423	49.2	4,924
朝日地区	1,070	19.1	1,903	33.9	2,642	47.1	5,615
山北地区	591	17.2	1,230	35.9	1,606	46.9	3,427
合計	3,700	10.9	11,127	32.7	19,229	56.5	34,056
新潟県		7.6		31.3		61.1	

(資料：平成17年国勢調査) 単位：人、%

※第1次産業：農業、林業、水産業及びこれと関連する産業
 第2次産業：製造業・建設業等の工業及びこれと関連する産業
 第3次産業：小売業・卸売業・サービス業等の商業及びこれと関連する産業

■農業

本市の平成17年現在の農業就業者数は、4,920人であり、朝日地区が最も多く(1,553人)、神林地区がこれに次いでいます(1,058人)。農業就業者数の年度別の変化を見ると、全体に減少傾向にあります。面積規模では、全体に0.5～1.0haの小規模農家が多い中で、平野部の神林地区では、2.0～3.0haの中規模農家が多くなっています。

また、農業生産額についても、朝日地区が畜産業に支えられて最も多くなっています。村上市全体としても、畜産業による産出額が最も多く、村上地区の肉用牛、朝日地区の豚が有名で、それぞれ飼育頭数が多くなっています。さらに、農業生産額の推移を見ると、村上地区と朝日地区での生産額が増加しており、市全体としても増加傾向にあります。



村上市中心市街地

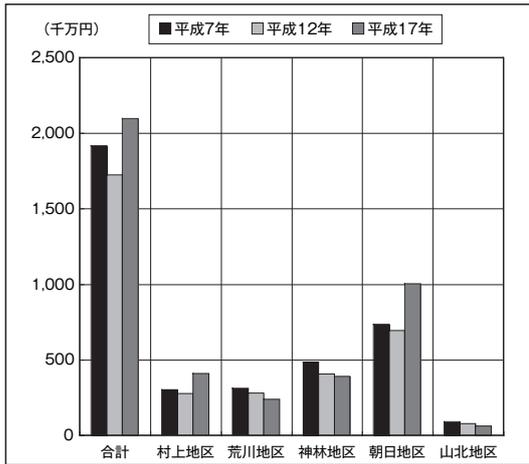


図 2-1-4 村上市の地区別農業生産額の推移 (資料：2005年農林業センサス)

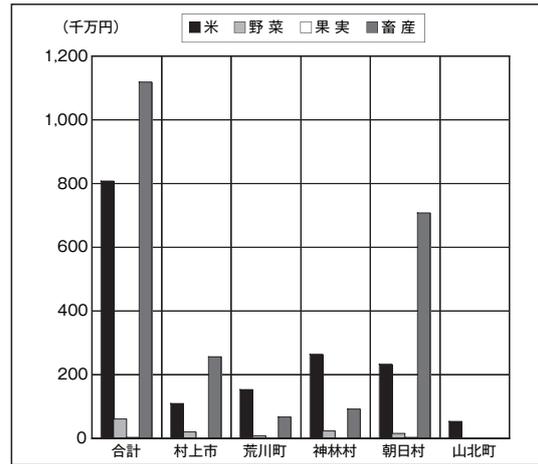


図 2-1-5 村上市の地区別種別農業生産額 (資料：2005年農林業センサス)

■林業

林野面積 (100,253ha) は、新潟県全体の 14.8% を占めており、このうち国有林面積は 46,784ha (新潟県全体の 22.8%)、私有林面積は 53,469ha (新潟県全体の 10.7%) となっています。また、木材の生産に関しては、本市は、新潟県内でも最も林業がさかんであり、新潟県全体の中で生産量 (54.5m³) は 42.9%、生産額 (46 千万円) では 29.7% を占めています。[出典：管内林業の概要 (新潟県村上地域振興局) 平成 22 年 4 月]

地区別では、私有林の保有山林面積の最も大きい山北地区で、林家が多くなっています。

■水産業

本市の海面漁業については、経営体総数は減少していますが、漁業就業者数は横ばい状態です。漁獲高・金額は海象や気象に大きく左右され、年ごとに豊漁と不漁を繰り返している状況です。本市で海面漁業が行われているのは、海岸線を有する山北・村上・神林地区ですが、山北地区での漁獲高が 2,337t/年と最も多く、村上地区の 1,357t/年がこれに次いでいます。[出典：平成 16 年海面漁業生産統計]

また、内水面漁業として鮭漁がさかんです。三面川鮭産業協同組合では毎年、主にサケやサクラマスの子魚の放流を行っています。

■工業

本市の工業については、事業所数、従業者数、製品出荷額ともに減少傾向にあります。特に、村上地区の旧工業地域での減少が顕著です。現在、市内には3ヶ所の工業団地があり、山北及び神林工業団地では分譲が行われています。

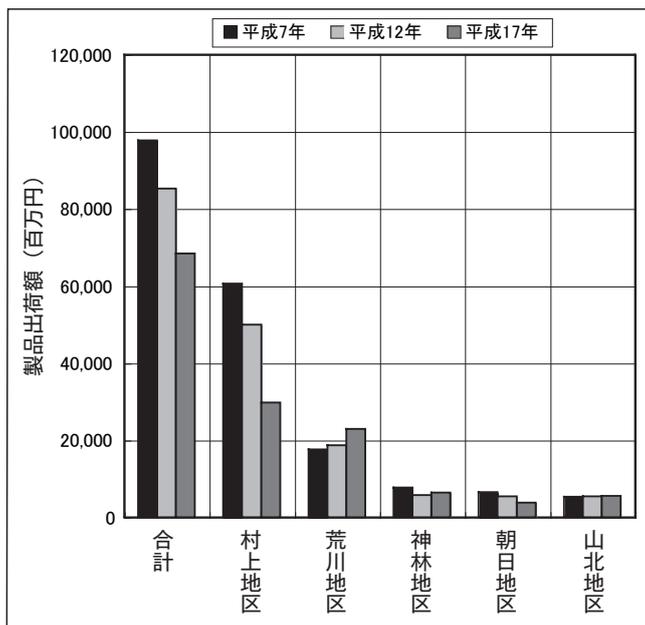


図 2-1-6 村上市の地区別工業製品出荷額の推移
(資料：工業統計調査、新潟県の工業 2005 年)

■商業

本市の商業については、商店数、従業者数、商品販売額ともに減少傾向にありましたが、商品販売額は、最近では横ばいからわずかに増加に転じています。現在、最も商業活動の活発な区域は、国道7号沿いの村上地区仲間町、荒川地区坂町付近であり、中心市街地では昔ながらの店舗が減ってきました。

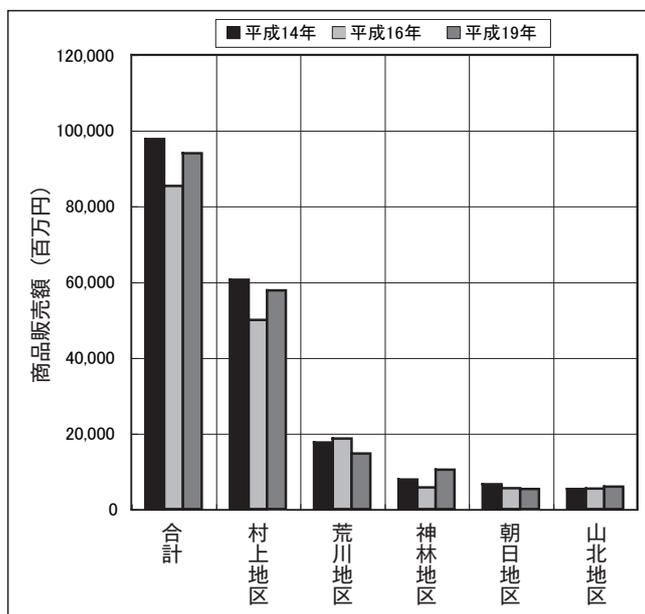


図 2-1-7 村上市の地区別商品販売額の推移
(資料：商業統計調査、新潟県の商業)